

2024（令和6）年2月25日（日曜日）に開催された外国籍県民かながわ会議（第12期・第8回）オープン会議の議事録は次のとおり。

1 開会

（韓昌熹委員、蔣香梅委員）

- ・ 本日はオープン会議に御参加いただき感謝する。私たちが本日の司会を担当する。開会に当たり、委員長から挨拶をお願いしたい。

2 委員長あいさつ

（柳晴実委員長）

- ・ 私たちは、今日まで7回の会議を重ねてきた。提言に関わるいろいろな課題について、神奈川県的狀況やどのような提言が必要とされているか、かながわ国際政策推進懇話会の委員に意見を伺ったり、他の団体の研修会などに参加しながら考え、提言素案をまとめている。
- ・ 一緒に提言を作りあげていくという気持ちで、皆様が気付いたことなど、いろいろな意見や提案を出していただきたい。今日の学びを今後の提言作成にしっかりと生かしていけるよう、受け止めていきたいと考えている。

3 国際課長あいさつ

（韓昌熹委員）

- ・ 続いて、神奈川県国際課の矢田健二課長から、御挨拶をお願いしたい。

（矢田健二国際課長）

- ・ 委員の皆様には、大変熱心に取り組んでいただいております、感謝する。
- ・ 神奈川県は非常に国際色豊かな地域であり、本会議ではこれまでも貴重な提言をたくさんいただき、施策の実現につなげてきた。
- ・ 多文化共生施策の実現には、県民の皆様の御理解・御協力が不可欠であるため、活発な御意見や御質問をいただければありがたい。

4 議題

(1) 情報部会の協議内容の説明

資料1に沿って、情報部会の協議内容を各委員が説明した。

(2) 情報部会の協議内容に関する質問・意見交換

<小学生、中学生向けの日本語のオンライン教室について>

(参加者の質問・意見)

- ・ 教科学習の支援につながる日本語という視点を入れていただきたい。日本語は対応できるが、教科指導に対応できないという先生は多くいる。
- ・ 文部科学省の方針で、子どもたちには GIGA 端末が配備されているが、Wi-Fi を貸すかどうかは学校の判断となっている。困窮している家庭は Wi-Fi が使えず、公共施設で無料の Wi-Fi を使って宿題している姿を見るので、基盤を含めて考えていただけるとよい。

<神奈川県HPの外国籍県民に対する情報提供の管理改善について>

(参加者の質問・意見)

- ・ 日本に来て情報の重要性を実感した。横浜市の広報紙を見て今年の7万円の給付金について知ったが、もしこの情報がなかったら給付金のことは分からなかった。
- ・ そのため、情報提供というチャンネルを改善する余地はあると思っており、特に大切な情報は外国籍県民に周知する必要があると思う。

(祁 静 委員)

- ・ 情報提供が不足していると感じている人が多い。一緒に考えながら改善していければと思うので、よろしく願いたい。

(参加者の質問・意見)

- ・ トップページコンテンツメニューに「外国籍県民へ」を追加と書いてあるが、日本語で追加するのか。

(祁 静 委員)

- ・ スペースに限りがあるので、まず、やさしい日本語のボタンを追加し、その先のページに、やさしい日本語を含めいろいろな言語を載せるのが一番よい方法だと考えている。
- ・ 日本語が分からない方は、入口が分からずに情報にたどり着けない場合が多いので、お店の目玉商品のように、入口を分かりやすくしたいと考えている。

(参加者の質問・意見)

- ・ やさしい日本語で書いても、日本語が読めない方は何が書いてあるかわからない。
- ・ 横浜市のトップページのように「Language」のボタンがあるとよい。その先にいろいろな言語があり、外国籍県民向けのページがあるという構成にした方がよいと思う。

(祁 静 委員)

- ・ 言語面の支援が一番必要な希少言語の方々への対応については、まだ検討するべきことが多い。すべての方に対応できることが一番なので、いろいろな方法を検討していきたい。

(参加者の質問・意見)

- ・ 必ずパソコンでホームページを見るとは限らないので、スマートフォンでの見え方がパソコンと違うことには注意した方がよい。
- ・ 横浜市のホームページの「Language」ボタンは、パソコンで見ると表示されるが、携帯で見ると（トップページ上部には）表示されない。
- ・ そのため、外出先など困ったときにも見られるよう、県に提言する際は、両方で見られるようにしてほしいと提案した方がよい。

<小学生、中学生向けの日本語のオンライン教室について>

(参加者の質問・意見)

- ・ 日本語オンライン教室は、よい取組だと思う。ただ、家に帰っても忙しい方もいるので、オンデマンド方式での視聴や、中継の場合には、多くの方が見られる時間を考えるなどの検討をした方がよい。

(3) 次世代・教育部会の協議内容の説明

資料1に沿って、次世代・教育部会の協議内容を各委員が説明した。

(4) 次世代・教育部会の協議内容に関する質問・意見交換

<神奈川県立高等学校における国際理解クラブ活動を促進するモデル事業について>

(参加者の質問・意見)

- 提案の名称だが、「国際理解」だと、日本人が外国人、外国人が日本人といった一方的な視点になるので、例えば「ともに生きる」、「多文化共生」など他の名称に変えた方がよいと感じた。
- 提言の受け手である高校や国際課に協力してほしいというスタンスだが、県民会議の委員がサポート・リードするという姿勢があるとよい。県民会議の各委員は、外国人と話をつなげることができると思うので、自分たちが汗を流すというメッセージがあるとよい。
- 多文化共生の土台は、参加できるということが前提になっているが、外国人には在留資格の問題がある。例えば、高校修了後に就職したときや、結婚するときには在留資格の変更について悩む方もいる。
- 在留資格の相談会は高校で実施されることもあるが、在留資格が人生の道筋においてどういう意義があるかを、積極的に発信していくことが大切である。
- 日本に居続けたいのであれば、場合によってはお金をかけて対応する必要があるし、お金がない人はどうするのかについても踏み込んでいけたらよいと思う。
- 在留資格制度の理解向上がこのクラブでできると、高校修了後の未来が少し楽になるかもしれない。併せて、ネットワークづくりもクラブでできると助かると思う。

(肖 欣怡 委員)

- 名称や今後の具体的な活動、在留資格の相談についても改めて検討し、まずは第12期委員として提言したい。継続性を含めた今後の具体的な対応は、別の立場としてつながりながら努めていきたい。

(参加者の質問・意見)

- 在留資格の相談ではなく、専門家を呼ぶなどしてクラブで在留資格を共に学ぶといった新しい形で考えていただければと思う。

(韓 昌燾 委員)

- この提言の趣旨は、高校生の自主活動として国籍や外国の文化などに関心を持ってもらうように打診することであり、サポートを中心には考えていない。
- 内容は高校の皆さんの御意見をいただきながら考えていきたい。

(参加者の質問・意見)

- ・ 提案のようなクラブが作られ、継続的に運営していくという前提でのお願いがある。
- ・ 学校内だけではなく、小学生や中学生、学校の先生に、自分たちの体験や思いを伝え、苦しんだことや嫌だったことをなくしていきたいというクラブのメンバーが出てくるかもしれない。
- ・ そういうとき、ボランティア団体が運営する学習支援教室に行き、そこに集まる外国につながる子どもたちに、ロールモデルとして自分の体験を伝えるようなアウトリーチの取組も考えていただくと、高校生もつながりができて頑張れるのではないかと思う。
- ・ 高校生が地域の学校を変えていく話ということで期待している。

(参加者の質問・意見)

- ・ 実現できる取組だと感じた。現実に、多文化共生のクラブや委員会がある学校はいくつかある。県の教育委員会や学校と連携し、現在、クラブや委員会がある学校でどのような活動を行っているか、どのような対応が可能かを協議するプログラムはできると思う。
- ・ 1点注意してほしいのは、トップダウンにならないようにすること。生徒の自主性を大事にし、生徒がやりたいことを支える立場で取組を広げてほしい。また、学校でなく、横の連携も含めて取り組んでほしい。

(参加者の質問・意見)

- ・ まだ最終の提言ではないので、この時点で「本提案を受け入れ可能な県立高等学校の実態」を課題にする必要はないと思う。
- ・ いくつかの学校が似たような取組をやっているのであれば、その情報を県から集め、取り組んでいない学校に当たっていかないと、事業が止まってしまう。そのため、短期的な計画の中で、学校を探すとした方が、現実的な取組になると思う。

(参加者の質問・意見)

- ・ 10代後半から20、30代くらいで日本に来た方は、日本社会に溶け込むのが難しいと思う。原因の一つに、日本人は「受け入れる」というモチベーションがないことが考えられる。
- ・ かながわ国際ファンクラブのイベントに参加したことがあるが、

がいこくじん わか かた おお にほんじん ねんばいしや にほん じゃくねんそう
外国人は若い方が多いが、日本人は年配者ばかりで、日本の若年層は、
こくさいりかい たぶん かきょうせい
国際理解や多文化共生のモチベーションがないように感じたので、ど
うやってモチベーションを上げていくかが課題ではないかと思う。

(5) しゃかいふくしぶかい きょうぎないよう せつめい
社会福祉部会の協議内容の説明

しりょう そ しゃかいふくしぶかい きょうぎないよう かくいん せつめい
資料1に沿って、社会福祉部会の協議内容を各委員が説明した。

(6) しゃかいふくしぶかい きょうぎないよう かん じつもん いけんこうかん
社会福祉部会の協議内容に関する質問・意見交換

さんかしゃ しつもん いけん
(参加者の質問・意見)

- こうれいか もんだい かんが ざいりゅうしかく かんが ひつよう
高齢化の問題を考えると、在留資格についても考える必要がある。
にほんじん
日本人のパートナーが先に亡くなった場合、日本にいらなくなる
ことが在留資格の制度上あるが、パートナーが活着ている間に、
ざいりゅうしかく せいどじょう
在留資格の制度上あるが、パートナーが活着ている間に、
えいじゅうしや きか にほん たいざい
永住者になるか、帰化するなどすれば日本に滞在できる。
- かいご じょうほう とど かない かだい おも
介護の情報が届かないという課題もあるとは思いますが、そもそも安心
して滞在できない人がいるという問題がある。
- えいじゅうしや しかく のうぜい けいぞく ねん たいざい あと
永住者の資格は、納税などを継続し、10年ほどの滞在があった後、
ようやく得ることができる。
- げんざい せいふ のうぜい えいじゅうしかく と け
現在、政府では、納税ができなくなったら永住資格を取り消せるよ
うにする仕組みを検討している。
- なが きょうせい かんが けんみんかいぎ
長く共生していくことを考えたときに、県民会議としておかしいと
おも 思っていただけるのであれば、ざいりゅうしかく そ い がいこくじん
在留資格に沿って活着ている外国人は、
おだ 追い出されるリスクがあるという視点でも かんが 考えていただければと思
う。

さんかしゃ しつもん いけん
(参加者の質問・意見)

- がいこくじん こうれいか かだい かい ていあん う
外国人の高齢化の課題について、ユッカの会から提案を受け、
かながわけんしゃかいふくしきょうぎかい ねんかん きょうどう じよせいじぎょう たぶんか
神奈川県社会福祉協議会の3年間の協働モデル助成事業で、多文化
こうれいしゃかい かつどう
高齢社会ネットかながわの活動をしてきた。
- おも かつどう なか がいこくじんとうじしや ほうかつしえん こうれいしや
主な活動の中で、外国人当事者のほか、包括支援センターで高齢者の
そうだんしえん おこな かがた けっか み
相談支援を行う方々にヒアリングした結果として見えてきたことがあ
るので、さんこう 参考にいただき、ていげん けんとう おも
提言の検討につなげてもらえればと思
う。

がいこくじんかいごし せいどどうにゅう
<外国人介護士コーディネーター制度導入について>

さんかしゃ しつもん いけん
(参加者の質問・意見)

- 40代から80代の外国人当事者のほとんどは、介護保険の制度を全く知らず、特に母国に介護の概念がない場合には、情報の伝わりにくさを感じている。
- また、高齢者施設のスタッフや支援者は、外国人がどのような文化や背景を持っているか、その方々の言葉を誰に聞いたら伝えてもらえるかといった情報が分かっておらず、手探りな状態で苦勞されている。
- まずは情報整備ということで、当事者も支援者も、ここに行けばすべてが分かるといった、ワンストップの仕組みが非常に大事である。
- 言葉や文化の違いは難しく、当事者と支援者の間に立ってコーディネートする人がいるとうまくいくのではないかという話もあったので、コーディネーター制度についても提言していただければと思う。

<外国人高齢者の集いの場づくりについて>

- 外国につながる方々は、御自身のコミュニティではつながっているが、隣りに住む人や、民生委員などとはつながっていない状況がある。地域といかにつながっているかが暮らしやすさにもつながると思う。
- ユッカの会では、中国出身の方に向けて介護の話などをしており、交流を含めて皆で学んでいくことが非常に大事である。
- 福祉と多文化が繋がっていないと感じた。県としても、福祉のセッションと協働してほしいところがある。
- 施設の人たちは、MIC かながわや YOKE など、国際交流の関係機関で通訳派遣をしていることを知らないで、外国の方々が日本で長く生活していくに当たり、つなげなければいけないところだと思ふ。
- 日本の施設に外国人が入ることで、日本人が当たり前だと思っていた文化がだんだん変わっていく現状もあり、お互いに協働、交流することの意味を感じた。

(参加者の質問・意見)

- 私どもは「やさしい日本語」の活用に取り組んでいる。これは、日本人と外国人とをつなぐもので、日本人が外国人に直面したときに、及び腰になるところを、外国人がやさしい日本語で「大丈夫ですよ」と言うことで、日本人が近づきやすくなるという機能もある言葉なので、学ぶとよいと思っただけだと嬉しい。

さんかしゃ しゅもん いけん
(参加者の質問・意見)

- 主婦の視点が少ないと感じた。子どもは学校、夫は会社に行けるが、主婦は仕事をするため公共職業安定所に行くときにも、夫に会社を休んで一緒についてきてもらったり、病気になったときには子どもに学校を休んでもらい、一緒に病院に行ったりする現状がある。
- 年を取って夫がいなくなった場合、主婦のお金で日本の高齢施設に入居するのは難しく、老後の生活が大きな問題になる。
- 地域で活動していて、外国人介護士コーディネーター制度や外国人高齢者の集いの場に出会ったことはないので、進めていただきたい。

ほんじつ
5 本日のまとめ

りゅ ちよんしる いいんちやう
(柳 晴実 委員長)

- 日ごろから改善したいと思ってきたことを共有できたことを嬉しく思う一方で、より一層伝えていく必要があると感じた。
- いろいろな方の話を聞きながら提言作成を進めてきたが、まだまだ学びが足りず、様々な立場や視点から考えていく必要があると感じた。
- 皆さんから、様々な取組について積極的な言葉をいただいたことは、大きな財産だと思う。今後、御相談することもあるかもしれないが、皆さんと一緒に提言を作り上げていければと思う。

いじやう
(以上)